

白山ふるさと文学賞

第二回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈母へのおもいに関する作文〉

中高校生の部 優秀賞

## 私のお母さん

光野中学校二年

高松 たかまつ

稚菜 わかな

受賞の言葉

私は普段言えない母への思いを作文で表現しました。その作文で、賞をもらうことができ、とても嬉しく思っています。そして、いつも言えない母への感謝の気持ちと母の大切さを、改めて考えることができました。

これからも、母をはじめ家族全員で仲良くしていきたいと思えます。また、母という存在を尊敬し、より良い生活を送りたいです。

本当にありがとうございました。

私にはお母さんがいます。どこにでもあるような極普通のお母さんですが、私の家族に対する愛情は世界一です。もちろん、やさしくしてくれるお母さんも好きだけど、ダメな時はちゃんと叱ってくれるお母さんも合わせて大好きです。

ある日、部活で練習試合をしに行つて帰ってきたとき、練習試合で自分の思い通りにいかず、自分の弱さがたくさん出てしまったことに、とっても苛立ち、悔しくて泣いてしまいました。ずっと泣いたままの私はもう泣くことしかできないくらいで、たくさんお母さんの服で涙をぬぐっていました。でも、そんな私にお母さんは、

「今は誰もおらんげんから、思いっきり泣いていいよ。それで、落ちて着いたらたくさん話してね。」

と、やさしく声をかけてくれました。その言葉をきいた瞬間、本当だったら泣きやみたいところだけど、私は余計に、涙がドツとあふれ出てきてしまいました。でもお母さんは私のことをギュッと抱きしめてくれました。ただただずっと私のことを抱きしめてくれました。そうしたら、お母さんのたくさんさんの温もりとパワーが伝わってきました。私はそのおかげで、すごく元気になりました。そしてうれしさと感謝の気持ちでいっぱいになりました。その後は、お母さんには自分の素直な気持ちを話すことができました。なんだかその日は、お母さんに魔法をかけられてしまったようでした。

しかし、私はあの日、お母さんに元気をもらっただけではないと思います。私は、「悔しさや悩みからくる涙はいつか乗り越えなければいけないという厳しさ」と、「それを乗り越えた時には、きつと前にはなつたかた強さと勇気がついてくるんだということ」をお母さんは口にはしなかつたけれど、そつと教えてくれた気がします。私ができることに気がついたとき、私はもつと前向きにがんばろうと思ったし、これ以上お母さんに無駄な心配をさせたくないと思いました。

私のお母さんは、中学校と高校で国語を教えています。でも、お母さ

んがこの仕事を始めたときより、すごく忙しくなりました。だから、お母さんはほぼ毎日、仕事のためのプリント作りや予習を欠かさずにやっています。お母さんは、仕事をまあまあ楽しそうにやっているけれど、本当はいつも、とっても疲れているのです。なのに、そんな顔を全く見せることなく、いつも笑顔でいてくれます。

おかげで私の家族は、安心して家族としていことができます。朝は家族のみんなよりも早く起きて朝ご飯を作り、私と兄が学校へ行くのを見送ってから、自分の仕事へ行く準備をし出かけていきます。お昼すぎぐらいまで仕事をし、買い物をして帰ってきます。帰ってきたら、少し休んで晩ご飯を作ります。その後は、洗濯とか皿洗いとか仕事の準備をしています。これが、私のお母さんの平日の大まかな日程ですが、仕事だけでも結構大変なのに、家族のこともちゃんと考えてくれています。やる事は少なく見えるけど、だから、私のお母さんはすごく強い人だと思います。

この世の中には、私のお母さんのように優しいお母さんがいる家族もいれば、いない家族もあります。だから、私の家族にいつでも優しいお母さんがいるということは、とっても幸せなことです。なので、私はこんな幸せな家族にいらせてくれるお母さんのことが、大好きです。

お母さんは私が生まれてから十三年間、毎日のように愛情を込めて育ててくれました。おかげで、私は今、とっても私らしくいられるようになりまし。これからも、たくさんさんの壁が私の前に立ちはだかってくると思います。だから、お母さんには、私が一人でも生きていけるようになるまで、私の成長を見守っていてほしいです。

私にはお母さんがいます。世界でたった一人だけの、私のお母さんです。世界でたった一人だけの、私の誇りです。